

第3回 音楽教育実践学フォーラム

音楽教育実践学における 授業研究の方法としての「授業分析」 その2

日時 2026年2月21日（土） 13時～15時45分
（受付開始 12時30分）

場所 貞静学園短期大学（東京都文京区小日向1丁目26-1）
地下鉄丸ノ内線 茗荷谷駅 徒歩6分
—対面とオンラインのハイフレックス形式で実施—

参加費 会 員：無料
非会員（対面参加のみ）：500円 ※当日受付にて現金払い

本フォーラムでは、「音楽教育実践学事典」に掲載されている用語や内容をトピック的に取り上げ、より良い音楽教育の創造のための理解を深めていくことを目的としています。



第3回のテーマは、前回に引き続き「音楽教育実践学における授業研究の方法としての『授業分析』（事典224頁「授業分析」）」です。本学会では、音楽科授業実践の記録を研究対象としている場合が多いかと思います。そのため、多くの会員の方が「授業実践を科学的に探究し、知見を導き出す」研究方法のひとつである「授業分析」について日々試行錯誤しているのではないのでしょうか。そこで、「授業分析」をシリーズ化し、「授業分析」という研究方法の手続きや実際について、参加者の皆さんと共に考えていきたいと思えます。

本フォーラムは、貞静学園短期大学での対面開催に併せ、会員の方はオンラインでご参加いただくことも可能です。ご参加を心よりお待ちしております。

お申し込みはこちらから



今回は、『生活感情を表現するうたづくり—理論と実践—』
黎明書房（2014）の事例8「百人一首のうた」の実践を
分析します。

※本フォーラムの情報は、随時当学会ホームページにて
お知らせします。



学会HP